



☆☆ニュースレター☆☆

第125号
発行日:2014. 10. 22
(since 2006.2.1)

このニュースレターはメールを登録している正会員および賛助会員ほか当団体が了承した希望者に、随時配信しております。配信中止を希望のかたは右記までご連絡ください。

NPO 法人・クライネスサービス

会長: 稲垣 正彦

発行責任者: 事務局長・桑原 正明

千葉県佐倉市宮ノ台3-2-2

npo-kleines-463@catv296.ne.jp

TEL/FAX: 043-463-1337

<http://www.catv296.ne.jp/~kleines/>

秋はイベントや行事が盛りだくさん

10月も終盤となりましたが、前号発行(9/18)以降では井野小「あいあいプロジェクト」、各地区での「敬老の集い」、「赤い羽根募金」、「井野っこまつり」、「ユーカーリ殖産住宅防災訓練」のほか、熊野神社祭礼*、小竹祭り(両祭とも 10/12)などが開催され、それぞれに会員有志が誘導・警備等で参加しました。このほか、定例パトロール、環境美化活動、さらにはこのところ一般市民の参加者も増加傾向にある「仲間と歩こう会」*、パークゴルフなども行われました。また県主催「県民ボランティア大会」(県文化会館にて 10/16 開催)には4名の理事が参加しました。

*10月11日(土)、藤井トシ子理事が女性初の担当リーダーとして実施された第62回目「仲間と歩こう会」は生谷にある「コスモス畑」コースでしたが、総勢33名もの参加者があり、内21名が女性。チラシなどを見ての初参加者は6名と盛況でした。*以下は熊野神社祭礼に参加した会員からの報告です。

午前9時、熊野神社境内へ参加者全員が集合。神主のお祓いに続いて、主催者が玉串奉納後、本神輿を先頭に子供神輿も含めて7台の神輿が、上座7町会へそれぞれ出発。殿の山車は台上でお囃子を奏でながら、婦人会有志の露払いの踊りと共に、賑やかに町中をねり歩きました。午後2時にユーカーリが丘駅前へ集合した神輿と山車が、休憩後一路熊野神社へ。クライネスサービスからは前半後半共、本神輿の前後に各1名、山車の前に1名、うしろに2名の陣容で、交通整理を手伝い、消防団やその他の警備員とも連携して、無事に終了しました。(岩浅)

写真:3年毎に開催の小竹祭り
途中一休みする若手担ぎ手たち



市内では麻賀多神社に次いで2番目に重いという 500kgs.もある神輿がまられる。



事務局から 受賞2名

安濟文一さんと小網幸雄さんが、表彰されました:10月16日、青葉の森公園芸術文化ホールで開催された「2014地域防犯ボランティア県民大会」において今年度表彰防犯功労者として、ご両名は県警本部長・県防犯協会理事長の連名で表彰され、副賞に盾が贈られました。小網さんは当会の他に所属している「さくら防犯パトロールネットワーク事務局長」としての受賞です。

(安濟さんの話)『通知をもらったときの役職がクライネスサービス副会長(防犯部長)であったので、クライネスサービスでの活動に対してだと思います。この表彰は会員の皆様のボランティア活動が認められたものと理解しており、私の名前になったのは、たまたま警察、市役所との諸活動打合せの窓口であったからではないでしょうか。会員の皆様に感謝申し上げます。有難うございました』

(以下次頁に続く)

会員投寄稿 -33- 「楽しきかな、歌」 (岩浅 博彰)

初めて舞台へ上がり多勢の人の前で唄ったのは中学生の時、のど自慢素人演芸会(現在のNHKのど自慢)でした。予選は難無く通過したのですが、本番はそれほど甘くなかった。結果は鐘二つ、その他多勢でした。



当時ののど自慢は、歌謡曲や民謡、浪曲、もの真似などがある娯楽番組でした。合格者からは、その後歌手になった森進一や五木ひろし、もの真似の桜井長一郎などが出ています。因みに、北島三郎は鐘二つ、美空ひばり(当時9歳)は鐘一つだったそうです。聞き惚れて鐘を鳴らすのを忘れたと云う伝説もあるとか。

私はその後、人前で唄うことはなかったのですが、社会人になり下戸であることを自覚した時に、唄って座持ちさせることを思いつき、持ち歌を増やしていきました。デビュー曲は三橋美智也の「哀愁列車」。

春日、三波、三橋など、高音域の歌が好きで、「いいねえ」と云うリップ・サービスに乗せられて、機会あるごとに唄っていました。

退職してからは、新しく知り合った仲間とカラオケを楽しんでいたのですが、70歳を過ぎた頃に臼井の音楽ホールで、年に一回カラオケ・コンクールがあることを知り、シニア部門に二年続けて出演。結果は入賞出来ずに、またもやその他多勢。三年目、応募前の練習で改めて録音したのを聞いてみて、ガックリ。

若い頃のようにいかないのは当然ですが、60歳代前半に比べても、思っていた以上に声量、延び、張りが衰えていたのです。

これでは入賞出来る筈がないので、三度目の挑戦は断念し、以後、仲間内で楽しむだけのカラオケに専念しています。

歌は世につれと言いますが、これ迄に沢山の歌手によって数えきれない程の歌が、唄われてきました。明治時代の「宮さん宮さん

や「コチャエ節(お江戸日本橋)」、大正時代の「船頭小唄」や「金色夜叉の歌」、そして昭和に入ってからには演歌、軍歌、抒情歌、ポップス等々、まさに百花繚乱です。カラオケが普及して唄うことを、より手軽に楽しめるようにもなりました。夜の街の流しの中には、持ち歌4000曲と云う人もいますが、私はせいぜい600曲位を、取っ替え引っ替えしながら唄っています。

このあと唄いたい歌は—サラ・ブライトマンの「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」です。



***新入正会員紹介:** お仲間が増えました。お二人とも10月1日入会です。

「嶋田 恵子(しまだ けいこ)さん」(ユウカリが丘2丁目在)

“こちらに引っ越して1年半たちましたが、よい街づくりに役立ちたい”

「前田 富美子(まえだ ふみこ)さん」(ユウカリが丘4丁目在)

“同じ街に住む知り合いに勧められて入会しました”

皆様よろしくお願ひします。